

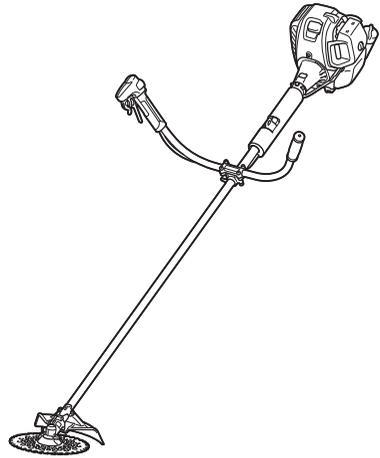
Makita



取扱説明書

エンジン刈払機

モデル MEM2655UH



このたびはエンジン刈払機をお買い上げ
賜わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよく
お読みいただき本機のパフォーマンスを十分ご理解
の上で、適切な取り扱いと保守をしてい
ただいて、いつまでも安全
に効率よくお使いくださる
ようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお
手元に大切に保管してくだ
さい。



目次

| | |
|------------------------|----|
| ・国内排出ガス自主規制について | 3 |
| ・シンボルマークについて | 4 |
| ・安全上のご注意 | 6 |
| ・注意ラベル | 16 |
| ・主要機能 | 17 |
| ・各部の名称 | 18 |
| ・標準付属品 | 19 |
| ・別販売品のご紹介 | 20 |
| ・ご使用前の準備 | 21 |
| ・ハンドルの取り付け方 | 22 |
| ・飛散防護カバーの取り付け方 | 23 |
| ・チップソー（刈刃）の取り付け・取りはずし方 | 24 |
| ・緊急離脱装置付肩掛けバンドの操作方法 | 28 |
| ・運転を始める前に | 29 |
| ・エンジンオイルの点検 | 29 |
| ・エンジンオイルの補給 | 30 |
| ・燃料の補給 | 31 |
| ・使い方 | 33 |
| ・エンジン始動方法 | 33 |
| ・エンジン停止方法 | 37 |
| ・操作方法 | 37 |
| ・アイドルリングの調整 | 38 |
| ・刈払作業 | 39 |
| ・保守・点検について | 41 |
| ・点検・整備 | 41 |
| ・エンジンオイルの交換 | 43 |
| ・エアクリーナの清掃 | 45 |
| ・点火プラグ（スパークプラグ）の点検 | 47 |
| ・ギャケースへのグリースの補給 | 47 |
| ・燃料フィルタの清掃 | 48 |
| ・各所ボルト、ナット、ビスの点検 | 48 |
| ・燃料パイプの交換 | 49 |
| ・各部の清掃 | 49 |
| ・保管方法 | 50 |
| ・保証書 | 56 |

国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。

本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。

<http://www.lemma.or.jp/>

シンボルマークについて

製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。



取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解の上ご使用ください。



作業中は半径 15m 以内に他の人や動物を近づけないでください。



換気の悪い場所では使用しないでください。



飛散物に注意してください。



刃物軸の最高回転数よりも高い許容回転数の刃刃を使用してください。



跳ね返り（キックバック）に注意してください。



自動車用ガソリンを入れてください。



給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。



エンジンを停止してください。



給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。



保護具を着用してください。



万一の場合に備えて救急箱を備えてください。

注意文の 警告 ・ 注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は  警告 と  注意 と  注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意。

全般

警告

- ご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分ご理解の上、ご使用ください。

- 本機の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。

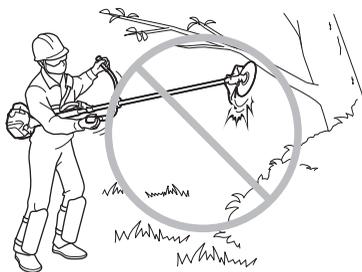


- 本機は雑草の刈払いを目的とした機械です。この目的以外には、使用しないでください。

- 目的以外で使用されますと、けがや事故の原因になります。また本機の寿命を縮めます。

- 枝打ちなどの作業はしないでください。

- けがや事故の原因になりますので腰より高い位置での作業はしないでください。



- 袖や裾の締まりのよい服装をしてください。また手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。

- 回転部に巻き込まれけがの原因になります。

- 保護帽（ヘルメット）、耳栓、保護メガネ（ゴーグル）、防振手袋、滑り止めの付いた安全靴、すね当てなどの保護具を着用してください。

- 保護帽（ヘルメット）

転倒や頭上の木の枝、落下物などから頭を保護するため、保護帽を着用してください。

- 耳栓

騒音から聴覚を保護するため、耳栓などの保護具を着用してください。

- 保護メガネ（ゴーグル）

刈刃部から飛んでくるものから目を保護するため、保護メガネを着用してください。

- 防振手袋

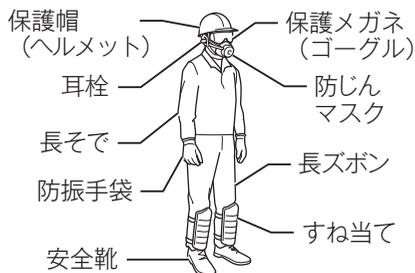
手の保護のため、防振手袋を着用してください。

- 安全靴

刈刃部から飛んでくるものから足を保護するため、底に滑り止めの付いた安全靴（先しん入り）を着用してください。

- すね当て

刈刃部から飛んでくるものから足を保護するため、すね当てを着用してください。



⚠ 警告

- ・ 防じんマスク
粉じんの多い作業では防じんマスクを着用してください。



6. 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むよう指導してください。また、子供や取り扱い方法を十分に理解していない人には本機を貸さないください。
 - ・ 本機の使用の知識が不十分な場合、事故の原因になります。
7. 誤った部品を取り付けたり改造をしないでください。
 - ・ 思わぬ事故の原因になります。
 - ・ 刃物は当社指定のものをご使用ください。

作業を始める前に

⚠ 警告

1. 次のときは本機を使用しないでください。事故の原因になります。

- 疲れているとき、身体が不調なとき。
- 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。
- 夜間の使用や悪天候などで視界の悪いとき。
- 妊婦による作業。

2. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

3. 引火、火災の恐れがあります。

- 燃料の混合および給油をするときは火気のない所で行ってください。
- 燃料の混合、給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどはタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



- 燃料を給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料の給油前に本機および給油用容器を地面に数分間置くなどして帯電している静電気を逃がしてください。
- 燃料の入っている燃料タンクのふたを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

- 手のひらを地面や金属に押し当て、静電気を逃がしてください。
- 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れてください。
- ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のあるものの近くでは、使用しないでください。
- 燃料の漏れがないか確認してください。

4. エンジンの排気ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。

- 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。



5. 雨上がりなど足元が滑りやすい場所、および急傾斜地では使用しないでください。また、ハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など不安定な場所では使用しないでください。

- 転倒してけがの原因になります。



⚠ 警告

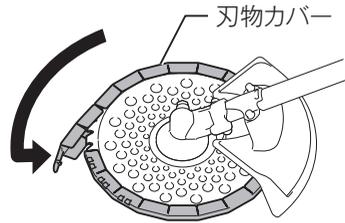
6. 身体を冷やさないような服装で作業してください。
7. 刈刃にひび割れ、欠け、変形、摩耗などの異常がないことを確認し、異常のあるものは使用しないでください。なお、刈刃点検時には手袋を着用してください。
 - ・ 異常があると刈刃が破損し、けがの原因になります。

[チップソー（刈刃）]



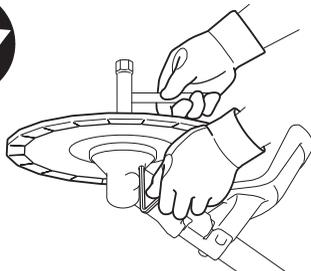
[刈刃の拡大図]

8. 刈刃は刃物（刈刃）軸最高回転数よりも高い許容回転数のものを使用してください。
 - ・ 刈刃の許容回転数が低いと刈刃が破損し、事故の原因になります。
9. 作業を始める前に刈刃から刃物カバーを取ってから使用してください。

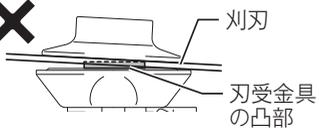
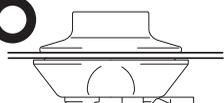


⚠ 注意

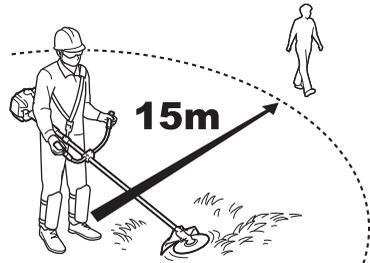
1. 使用前にネジのゆるみや欠落した部品などがないか確認してください。
 - 不完全な本機を使用するとけがの原因になります。
2. 刃物（刈刃）類や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。また刈刃の取り付けの際は、必ず手袋をしてください。
 - 確実でないとはずれたりし、けがの原因になります。



3. 刈刃を取り付ける場合は、刃受金具の凸部と刈刃の取り付け穴を確実にはめてください。
 - 刈刃が正しく取り付けられていないと異常振動し、けがの原因になります。



4. 調整キーやレンチなどは必ず取りはずしてください。
 - 付けたままでは使用時に飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
 - 本機に収納場所がある場合は、決められた位置にしっかりと固定してください。
5. エンジンを始動させる前に、半径 15m 以内に他の人や動物がいないことを確認してください。特に子供やペットが近くにいるときは、半径 15 m 以内にかかわらず使用しないでください。
 - 不用意に他の人や動物などを近づけると事故の原因になります。



6. エンジンを始動するときは刈刃が地面や樹木、その他の障害物に触れていないことを確認してから始動してください。
 - 刈刃が障害物に触れていると事故の原因になります。

⚠ 注意

7. 刈払いする場所にある小石、針金、空カン、空ビンなどの障害物は取り除いてから使用してください。
- 使用中に刈刃が障害物に当たると、障害物の飛散、本機の跳ね返り、刈刃の破損などにより事故の原因になります。



警告

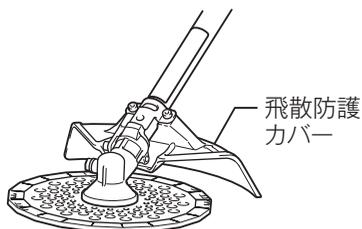
1. 本機は両手で確実に保持し、体重が両足にかかるように適当に足を開いて使用してください。その際、ハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。また付属の肩掛けバンド（緊急離脱装置付）を必ず着用してください。
 - ・ 確実に保持していないと、けがの原因になります。



2. 始動時および運転中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。
 - ・ 感電する恐れがあります。
3. 飛散防護カバーは必ず指定の位置に取り付けて使用してください。また、ひび割れや変形など異常のある飛散防護カバーは使用しないでください。

- ・ 飛散防護カバーを取り付けなかったり、指定の位置に取り付けずに使用しますと小石などが飛散した場合、けがの原因になります。
- ・ 異常のある飛散防護カバーは使用中に破損して、けがの原因になります。

[チップソー（刈刃）]



4. 回転している刈刃に手や顔、衣服などを不用意に近づけないでください。
 - ・ けがの原因になります。



⚠ 警告

5. 使用中に刈刃が石などの障害物に当たったときは、すぐにエンジンを停止させ異常がないか調べてください。
 - そのまま使用していると事故の原因になります。
6. 刈刃に雑草などがからみついたときは、必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が停止したことを確認してから取り除いてください。
 - 刈刃やエンジンが回ったままではけがの原因になります。
7. 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音が出たときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止してください。
 - そのまま使用していると事故の原因になります。



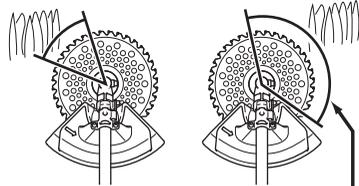
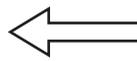
8. 刈刃で打つ、たたくなどの方法で刈払い作業をしないでください。
 - 跳ね返りや刈刃が破損し事故の原因になります。



9. 使用中、キックバックが起こる可能性があります。キックバック防止のため、刈刃を右から左に操作して刈払い作業を行ってください。
 - キックバックが起こると、本機が思わぬ方向に動き、けがや事故の原因になります。

正しい作業方向

危険な作業方向



△キックバック:

この範囲で刈刃が硬いものに当たると、反動で作業側(自分の方向)に本機が跳ね返されます。

⚠ 注意

1. 使用中は半径 15 m以内に他の人や動物などを近づけないでください。また 2人以上で作業を行うときは、お互いに 15m 以上の間隔を取り、監督者をおいでください。使用中、15m 以内に他の人や動物などが近づいた場合は、直ちにエンジンを停止し作業を中止して注意をうながしてください。
 - 不用意に他の人や動物などを近づけると事故の原因になります。



2. 本機を使用している人に近づくときは、使用者から 15m 以上離れた位置で合図し、エンジンの停止と刈刃の回転の停止を確認してから近づいてください。
 - 不用意に近づくと使用者が気が付かず事故の原因になります。



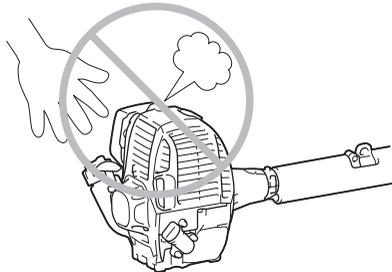
3. 刈刃が石や縁石、フェンスなどに当たる恐れのある場所では使用しないでください。
 - 使用中に刈刃が石や縁石、フェンスなどに当たると、跳ね返りまたは刈刃が破損し、事故の原因になります。
4. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。
 - 事故の原因になります。
5. 作業に合った刈刃の回転数で使用してください。
 - 回転数が低すぎますと雑草がからみつくことがあります。
 - 回転数が高すぎますと燃費が悪いだけでなく、本機の寿命を縮める原因にもなります。
6. 長時間の作業は、身体に負担がかかります。連続使用時間は 30 分以内とし、一連続作業の後 5 分以上の休止時間を設けてください。また一日の作業時間は 2 時間以内としてください。
 - 疲労すると注意力が欠け、けがや事故の原因になります。

(参考) 国有林では、作業者の健康管理のため、次のような基準が設けられています。

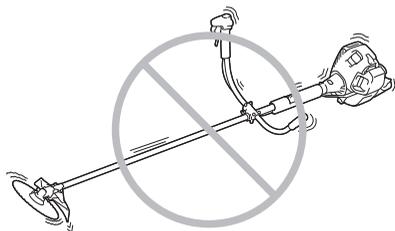
| | |
|------------|----------|
| 1 回の連続作業時間 | 30 分 以内 |
| 1 日の作業時間 | 2 時間 以内 |
| 1 週の作業日数 | 5 日 以内 |
| 1 月の作業時間 | 40 時間 以内 |
7. 本機から離れるとき、または休憩時にはエンジンを停止し刈刃の回転が停止したことを確認してから刈刃に刃物カバーを取り付けてください。
 - けがの原因になります。

⚠ 注意

8. 使用中およびエンジン停止直後、マフラ、シリンダフィンなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
- やけどの原因になります。



9. エンジンをかけたまま放置しないでください。事故の原因になります。

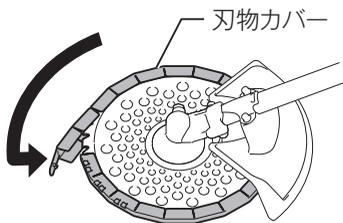


10. エンジンオイル給油後はエンジンが正立状態になる様に運搬してください。

その他

⚠ 注意

1. 運搬時や保管時、休憩時は刃物（刈刃）カバーを必ず取り付けてください。
- けがの原因になります。



2. 車で移動する場合や本機を運搬する場合には、燃料を燃料タンクから抜き、燃料タンクが完全に空になっていることを確認してください。
- 火災、事故の原因になります。

3. 万一の事故に備えて、必ず救急箱を作業場の近くに備え付けてください。救急箱から持ち出した場合には、直ちに交換品を入れておいてください。

4. 注意ラベルがはがれてしまった場合は、新しい注意ラベルを貼ってください。注意ラベルは、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所に手配をお申し付けください。

5. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。
- 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因になります。

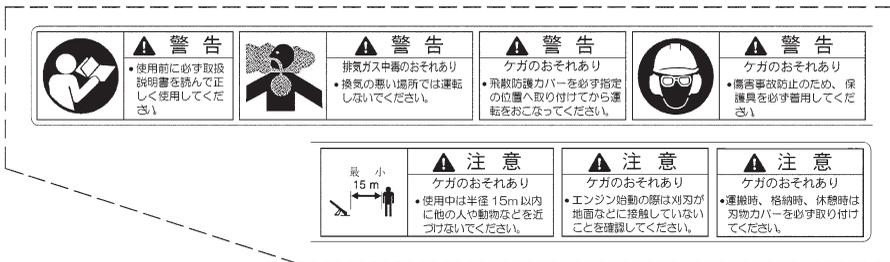
注意ラベル

安全に使用していただくために、本機には注意ラベルが貼ってあります。注意ラベルをすべて読んでからご使用ください。

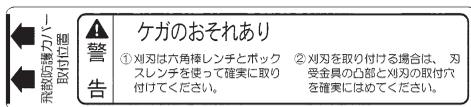
注意ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。またラベルが貼られている部分を交換する場合は、ラベルも新しいものと交換し、貼り付けてください。

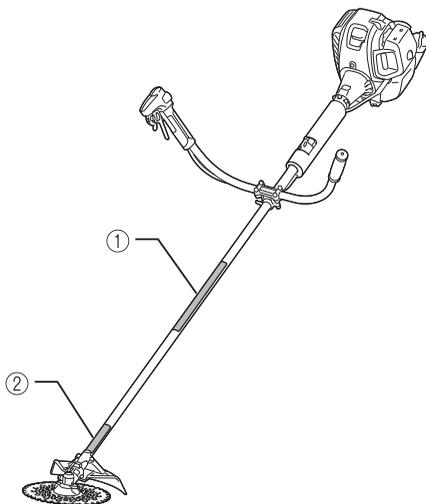
ラベルの手配はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。



貼付位置：①



貼付位置：②

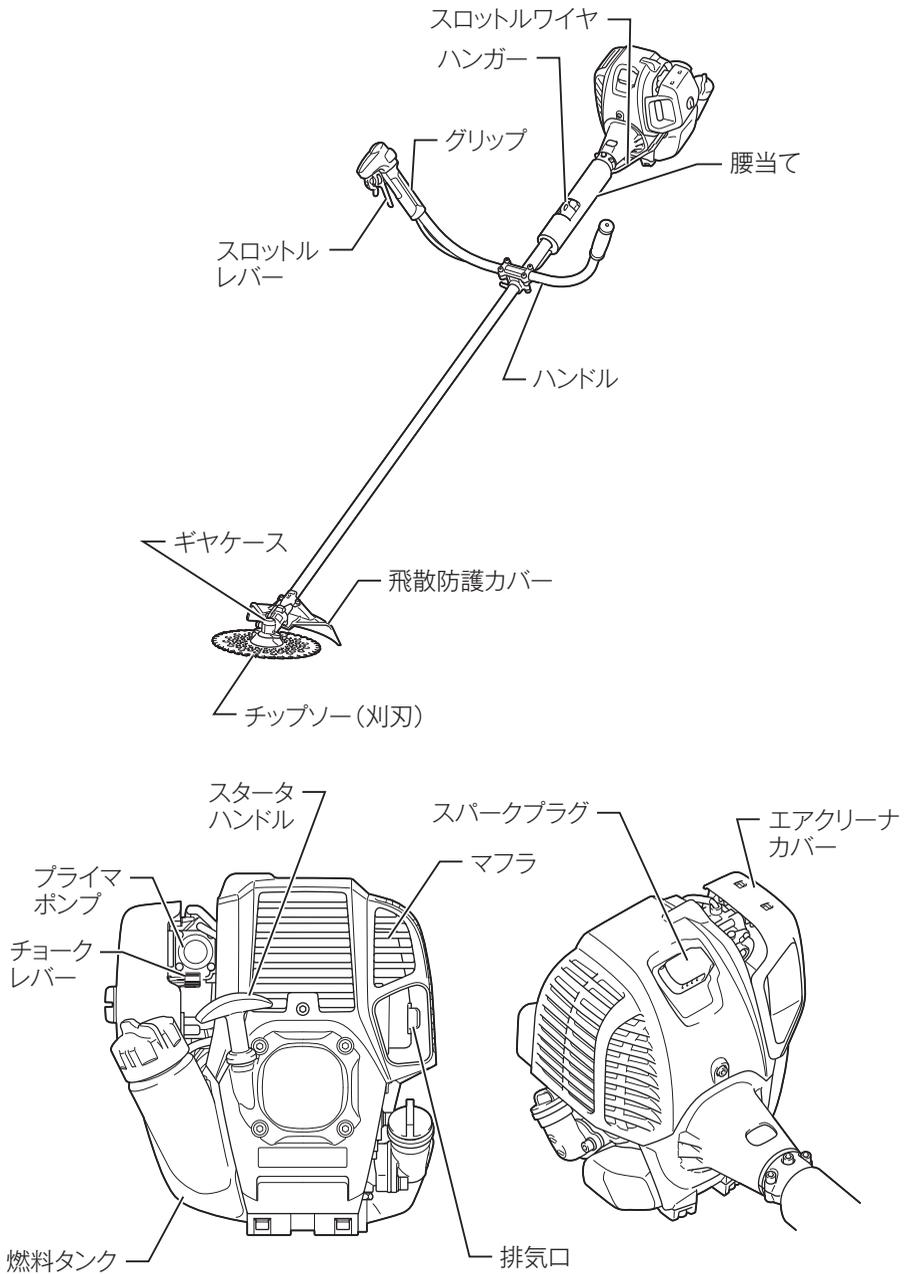


主要機能

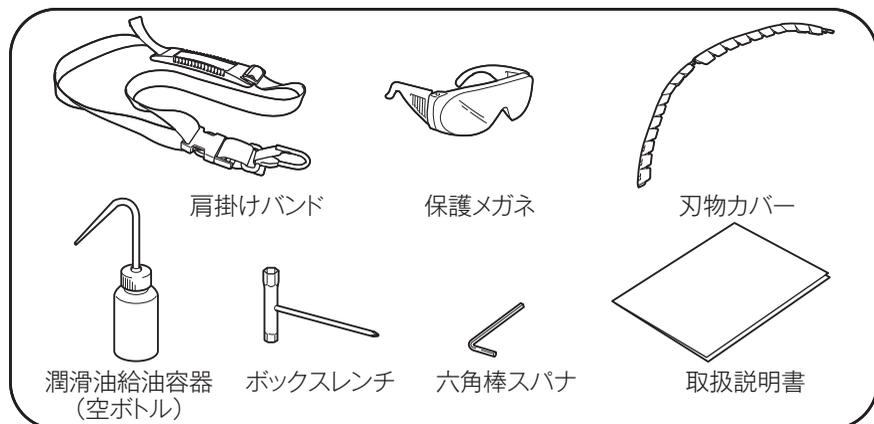
| | | |
|-----------------------------------|----------------------------|--|
| 機 種 | 動力刈取機 (刈払型) | |
| 型 式 名 | MEM2655UH | |
| 質 量 (kg) | 5.5 | |
| 寸法(全長×全幅×全高)(mm) | 1,838 (1,770*) × 585 × 380 | |
| 刃物軸最高回転数(min ⁻¹) | 7,400 | |
| エ ン ジ ン | 型 式 | 空冷 4 ストローク直立単気筒 OHV ガソリンエンジン |
| | 排 気 量 (mL) | 25.4 |
| | 使用 燃 料 | 自動車用ガソリン |
| | 燃料タンク容量 (L) | 0.6 |
| | 使用潤滑油 (エンジンオイル) | API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル (自動車用 4 ストロークエンジンオイル) |
| | 潤 滑 油 量 (L) | 0.08 |
| | 気化器(キャブレタ) | ダイヤフラム式 |
| | 点 火 方 式 | 無接点マグネット式 |
| | 点 火 プ ラ グ (スパークプラグ) | NGK CMR4A |
| | 始 動 方 式 | リコイル式 (メカニカルデコンプ+楽らくスタート) |
| | 潤 滑 方 式 | 強制潤滑方式 |
| 動 力 伝 達 部 | クラッチ方式 | 自動遠心方式 |
| | ギヤ変速比 | 14/19 減速 |
| 操 作 部 | 携 行 バ ン ド | 緊急離脱装置付肩掛けバンド |
| | 操 作 ハ ン ド ル | 両持 U 型分割式 |
| 振 動 3 軸 合 成 値 (m/s ²) | | 4.5 |
| 標 準 付 属 品 | | チップソー (230mm)、飛散防護カバー、 刃物カバー、潤滑油給油用容器 (空ボトル)、 肩掛けバンド (シングル)、 ボックスレンチ、六角棒スパナ、 取扱説明書、保護メガネ |

1. 刈刃、エンジンオイル、スパークプラグは**マキタ指定**のものをご使用ください。
2. 改良のため主要機能および形状などは変更する場合がありますのでご了承ください。
3. 質量は ISO11806 規格に基づき測定。
4. 振動 3 軸合成値は ISO22867 規格に基づき測定。
5. 振動 3 軸合成値についての詳細は JEMA [(社) 日本電機工業会] ウェブサイト : (<http://www.jema-net.or.jp/japanese/pis/powertool.html>) をご参照ください。
6. *: 先端の刃物を除いた寸法

各部の名称



標準付属品



チップソー(刈刃)
*紙ケース入り



アクセサリバッグ

別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店、または当社営業所へお問い合わせください。
- ・ プロテクタ（飛散防護カバー）
（ナイロンコード用）
部品番号：197813-9
- ・ ナイロンコードカッタ
ウルトラオート 4
部品番号：A-13823
- ・ 静音ナイロンコード 30 m
部品番号：A-37580
- ・ 静音ナイロンコード 50 m
部品番号：A-37596
- ・ 軽快チップソー
部品番号：A-56926
- ・ ファインチップソー
部品番号：A-33118
A-40777
A-35623
A-46729
- ・ 竹・笹・雑木用チップソー
部品番号：A-49971

⚠ 注意

ナイロンコードカッタを使用する際は本機に別販売品のナイロンコード用プロテクタ（飛散防護カバー）を取り付けてご使用ください。

ご使用前の準備

⚠ 警告

本機の組み立てや付属品の取り付け取りはずしの際は、必ずエンジンを切ってください。また作業中に始動しないでください。

- ・ 本機が作動して、けがの恐れがあります。

付属品をしっかり取り付けてから作業してください。

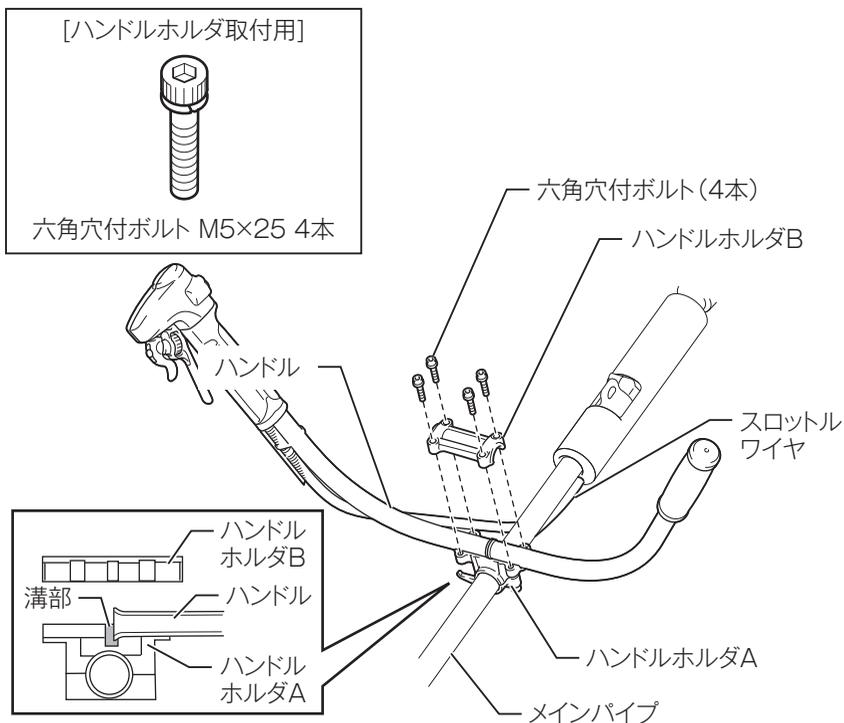
ハンドル、飛散防護カバーを取り付けずにエンジンを始動しないでください。

本機は、ハンドル、飛散防護カバー、刈刃がはずしてありますので、次の手順で付属の工具を使用し組み付けてください。

ご使用前の準備

ハンドルの取り付け方

1. ハンドルを図のようにハンドルホルダ A にのせます。
2. ハンドルホルダ A の溝部にハンドルの端を合わせ、ハンドルホルダ B を六角穴付ボルト（4本）で仮止めします。
3. ハンドルを使いやすい角度に調整し、仮止めした六角穴付ボルト（4本）をしっかり締め付けます。



ご使用前の準備

飛散防護カバーの取り付け方

⚠ 警告

本機の組み立てや付属品の取り付け取りはずしの際は、必ずエンジンを切ってください。また作業中に始動しないでください。

- ・ 本機が作動して、けがの恐れがあります。

飛散防護カバーをはずした状態で使用しないでください。

- ・ 事故やけがの恐れがあります。

飛散防護カバーは必ず指定の位置に取り付けて使用してください。

- ・ 飛散防護カバーを取り付けなかったり、指定の位置に取り付けずに使用すると小石などが飛散した場合、けがの原因になります。

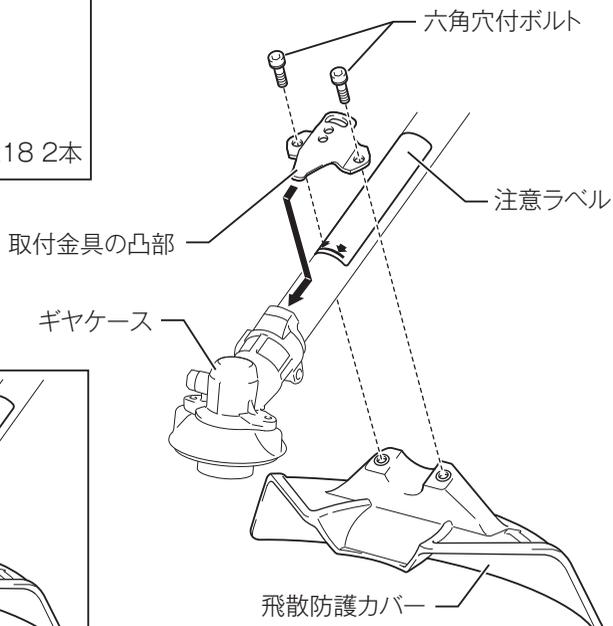
1. 取付金具の凸部を図のようにギヤケースに奥まで差し込み、取付金具の後端を注意ラベルの矢印に合わせてください。
2. 取付金具に飛散防護カバーを2本の六角穴付ボルトで取り付け、六角棒スパナでしっかり締め付けてください。(2本とも均等に締め付けてください。)

[飛散防護カバー取付用]



六角穴付ボルト M5x18 2本

組み付け完了後



ご使用前の準備

チップソー（刈刃）の取り付け・取りはずし方

⚠ 警告

外径が 230 mm または 255 mm の刃物（刈刃）を使用してください。

外径 255 mm を越える刃物（刈刃）を使用しないでください。

- ・ けがの原因になります。

刈刃の取り付け・取りはずしの際は、必ずエンジン停止させてください。

- ・ けがの原因になります。

刈刃の取り付け、取りはずしの際は、必ず手袋をしてください。

- ・ けがの原因になります。

刈刃の取り付け、取りはずしの際は、必ず付属のボックスレンチを使用してください。

- ・ 付属工具以外で締め付けた場合、締め過ぎや締め付け不足となり、事故の原因になります。

刈刃を取り付ける場合は、刃受金具の凸部と刈刃の取付穴を確実にはめてください。

- ・ 刈刃が正しく取り付けいていないと異常振動し事故の原因になります。

刈刃にひび割れ、欠け、変形、摩耗などの異常がないことを確認し、異常のあるものは使用しないでください。

なお、刈刃点検時には手袋を着用してください。

- ・ 異常があると刈刃が破損し、けがの原因になります。

作業時、刈刃に異常が発生した場合はエンジンを停止させ刈刃の回転が止まったことを確認してから点検交換を行ってください。

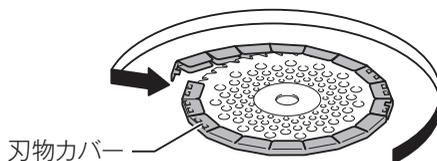
- ・ けがの原因になります。

刈刃の締付ナット（バネ座金付き）、刃押え金具は消耗品です。摩耗や変形がありましたら交換してください。

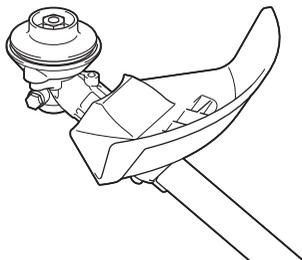
- ・ そのままご使用になられますと使用中に分解し飛散して部品の紛失やけがをする恐れがあります。

ご使用前の準備

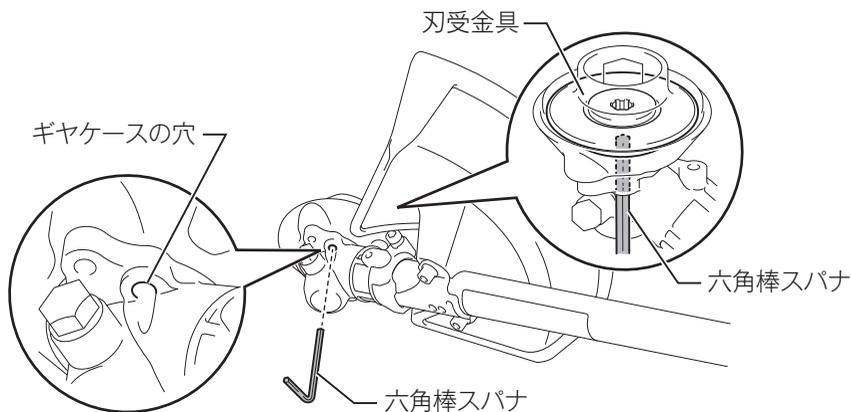
1. チップソー（刈刃）に刃物カバーを取り付けます。



2. チップソー（刈刃）を交換しやすいように本機を裏返します。

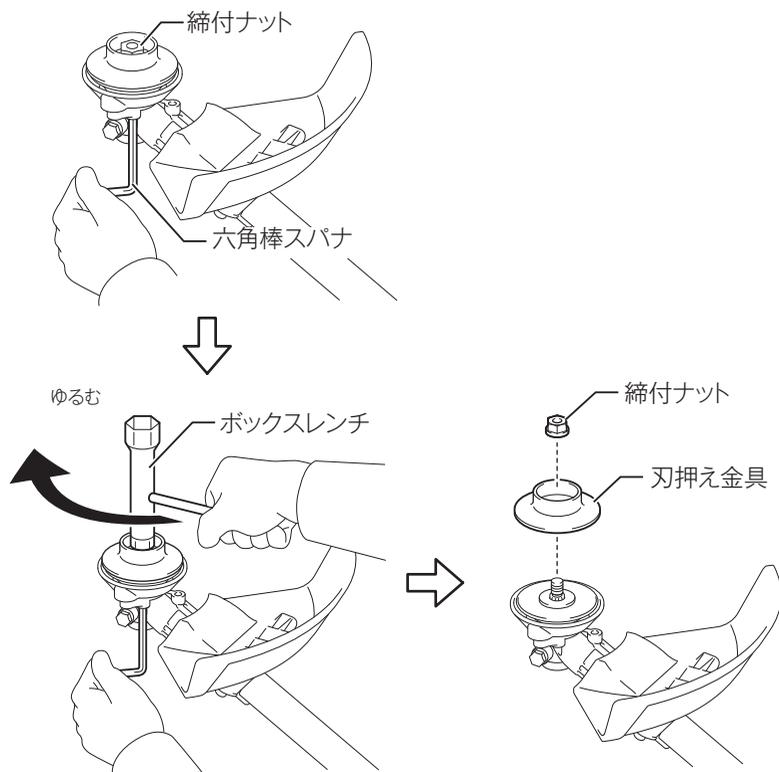


3. ギヤケースの穴に六角棒スパナを差し込み、刃受金具が回らないように固定します。

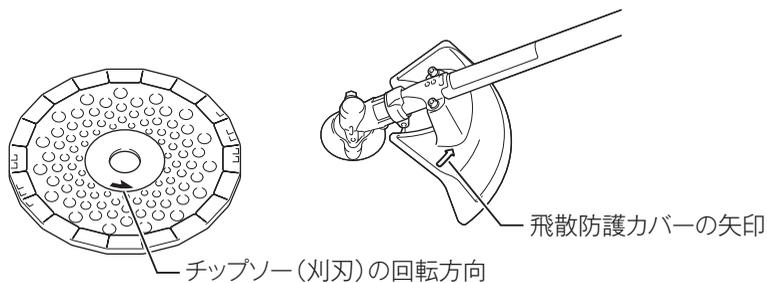


ご使用前の準備

4. 締付ナット（左ネジ）を付属のボックスレンチで右へ回して、締付ナット、刃押え金具をはずします。

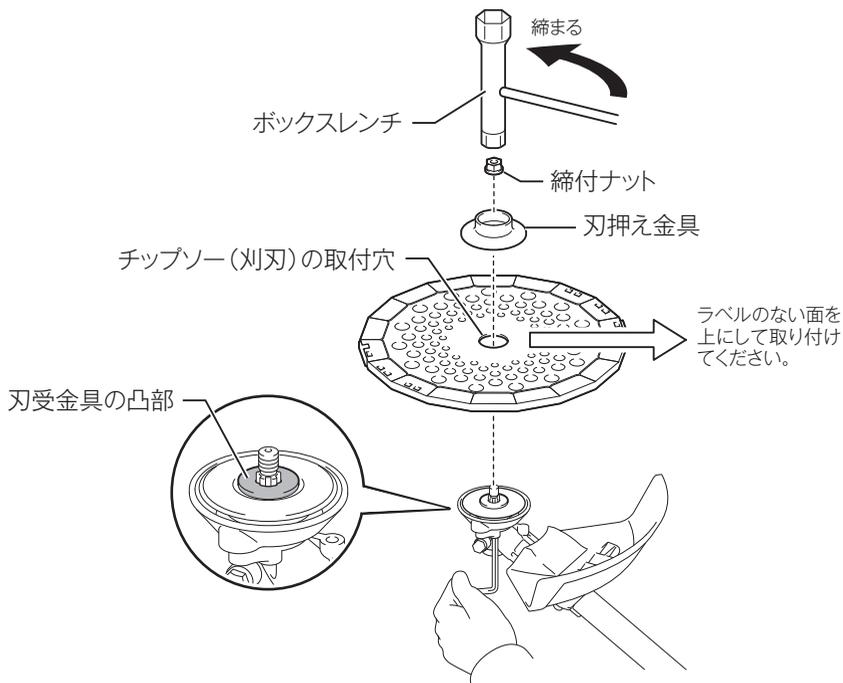


5. チップソー（刈刃）の回転方向と飛散防護カバーの矢印を合わせます。

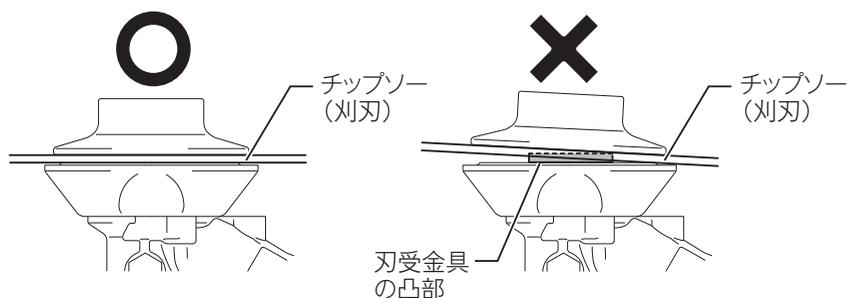


ご使用前の準備

6. 刃受金具の凸部とチップソー（刈刃）の取付穴を合わせて、チップソー（刈刃）→刃押え金具→締付ナットの順に取り付け、締付ナットを付属のボックスレンチで左に回してしっかり締め付けます。



7. 六角棒スパナをはずし、チップソー（刈刃）を手で軽く回してチップソー（刈刃）の取付穴が刃受金具の凸部からずれていないことを確認します。ずれている場合は、もう一度チップソー（刈刃）を取り付け直してください。

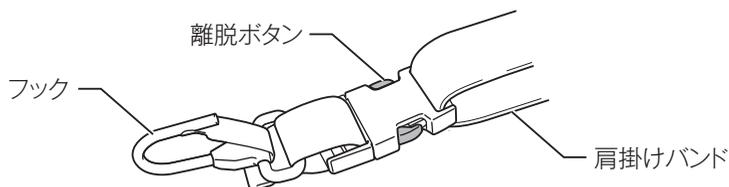


8. 刈払作業を行うときは刃物カバーを取りはずしてください。
・ 刈刃を取りはずすときは、取り付け方と同じ要領で行ってください。

ご使用前の準備

緊急離脱装置付肩掛けバンドの操作方法

肩掛けバンドとフック部分が図のようにしっかりと取り付けられているか確認してください。もしはずれている場合は、カチッと音がするまで差し込んで引っ張っても抜けないことを確認してください。



肩掛けバンドの装着方法

- ・ 肩掛けバンドは、左肩へたすき掛けにしてください。
- ・ 本機は身体の右側に吊ります。
- ・ 刈刃が地面から約 10cm の高さで水平になるように肩掛けバンドの長さを調節してください。

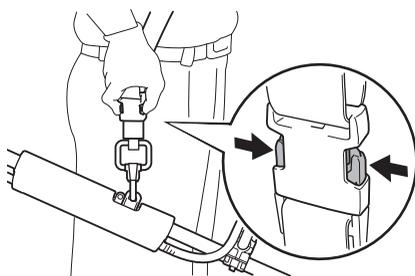


本機の離脱（緊急離脱）

⚠ 警告

緊急離脱のときは、本機の支持に細心の注意を払ってください。
本機のコントロールを失うと、作業者自身または第三者が死亡あるいは重傷を負う可能性があります。

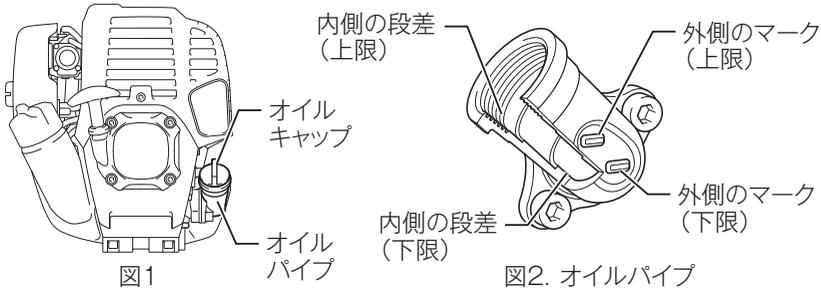
- ・ 緊急時、図のように緊急離脱装置の離脱ボタンを両側から押すと、本機はバンドと切り離されます。
- ・ バックルのレバーを強く押すとバックルがはずれます。



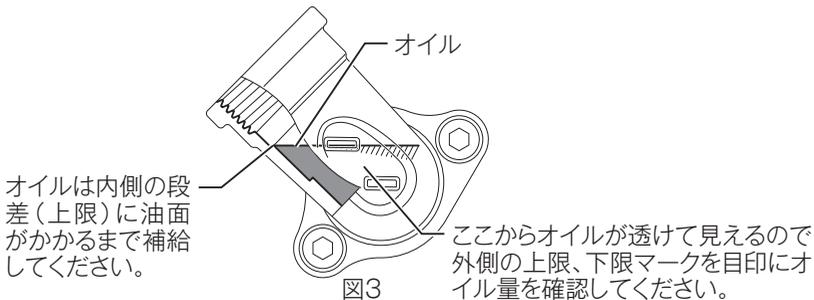
運転を始める前に

エンジンオイルの点検

- ・ エンジンが冷えている状態で、以下の手順に従って行ってください。
- ・ エンジンを水平にし、オイルキャップ(図1)をはずしオイルパイプの上限・下限位置の範囲内(図2)までオイルがあるか点検してください。



- ・ 不足している場合(下限位置付近までオイル油面位置が低い場合)、上限位置までオイルを補給してください(図3)。
- ・ 外側のマークで囲まれる部分の中はオイルが透けて見えるので、オイルキャップをはずさなくても外からオイル量を確認できます。但し、オイルパイプがひどく汚れて中のオイルが見えにくくなった場合は内側の段差にて確認してください。



- ・ 参考として、オイル補給時間は約 10 h (燃料給油回数で、10 回 (10 タンク)) です。
- ・ 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は 43 ページ参照。)

運転を始める前に

《推奨オイル》……当社ミニ4ストローク用純正オイル、または、API分類SF級以上のSAE10W-30オイル（自動車用4サイクルエンジンオイル）を使用してください。

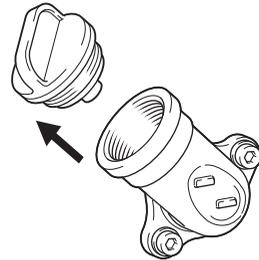
《オイル容量》……約80 mL

オイル交換のポイント1《オイルキャップ》

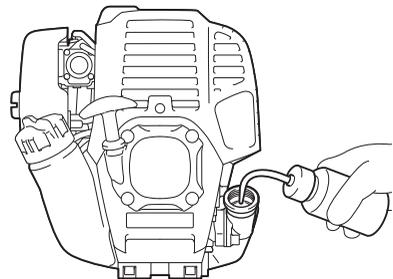
- ・ オイル給油口周りのゴミや汚れをとってからオイルキャップをはずしてください。
- ・ 取りはずしたオイルキャップは、砂・ゴミなどがつかない場所に置いてください。もしこれらがついたまま組付けると、オイル循環不良やエンジン各所の摩耗を引き起こし、故障の原因となる恐れがあります。

エンジンオイルの補給

1. エンジンを水平にし、オイルキャップをはずしてください。



2. オイルを上限位置まで補給してください（前頁図3）。
注入のときは、潤滑油給油容器を使用してオイルを注入してください。
3. オイルキャップを確実に閉めてください。
締付が緩いとオイルが漏れることがあります。



オイル交換のポイント2《オイルをこぼしてしまったら…》

- ・ 燃料タンクとエンジン本体の間にオイルをこぼしてしまった場合、そのまま運転すると、冷却風取り入れ口よりオイルを吸い込みオイル汚れの原因となります。必ずこぼしてしまったオイルを拭き取ってから運転してください。

運転を始める前に

燃料の補給

⚠ 警告

燃料の給油をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- ・ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・ 燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- ・ 燃料をこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

燃料の取り扱いには十分注意してください。

- ・ 燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

燃料の保管期間

燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管した場合で4週間以内に使い切ることが目安です。専用容器でないとき、栓をしないうきなど、夏場では1日で劣化する場合があります。

本機並びに補給タンクの保管方法について

- ・ 直射日光を避け、できるだけ涼しい所に保管してください。
- ・ 自動車のトランクや車中に燃料を入れたまま放置しないでください。

燃料について

このエンジンは4ストロークエンジンです。自動車用ガソリン（レギュラーガソリン）を燃料として運転してください。

燃料のポイント

- ・ ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となります。
- ・ 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

運転を始める前に

給油について

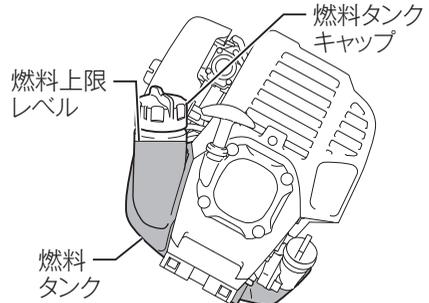
⚠ 警告

燃料の給油は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- ・ 引火・火災の原因になります。

使用ガソリン……自動車用ガソリン

- ・ 燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差をなくします。
- ・ 燃料タンクキャップをはずし、給油口を上向きになるよう傾けて空気を抜きながら補給します（給油口いっぱいまで入れないでください）。
- ・ 補給後、燃料タンクキャップをしっかり締め付けてください。
- ・ 燃料タンクキャップは消耗品です。点検して異常が認められたら交換してください。（交換目安：2～3年）



使い方

エンジン始動方法

⚠ 警告

燃料を給油した場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも 3 m 以上離れた所で始動させてください。

- ・ 引火、火災の原因になります。

エンジンの排ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。

- ・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

エンジンを始動する前に、緊急離脱装置付肩掛けバンドを装着し、異常がないかを確認してください。

始動後、音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、点検を行ってください。

- ・ そのまま使用しますと、事故の原因になります。

スロットルレバーを“刈刃停止位置”に戻したとき、刈刃が停止することを確認してください。刈刃は惰性でしばらく回転した後停止します。

ストップスイッチを押したとき、エンジンが停止することを確認してください。

⚠ 注意

エンジン始動前に刃物カバーをはずし刈刃が正しく取り付けられているかどうか確認してください。

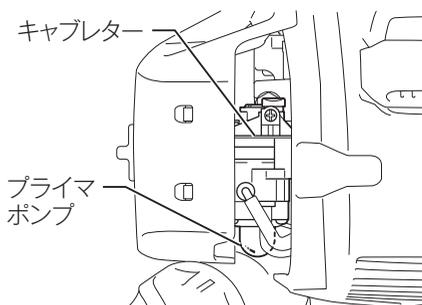
エンジンを始動させる前、刈刃が地面や樹木その他の障害物に触れていないことを確認してください。

- ・ 刈刃が障害物に触れたまま始動させると事故の原因になります。

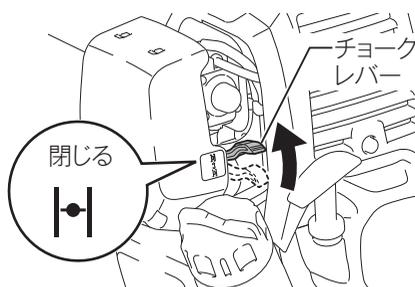
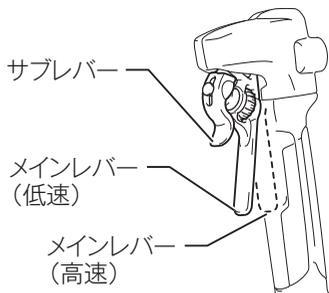
使い方

エンジンが冷えている場合、または燃料を給油した場合

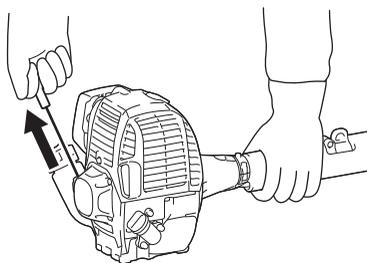
1. 本機を平坦な地面に置いてください。
2. 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押ししてください。
 - ・ 7～10回程度で燃料がキャブレターにあがってきます。
 - ・ 押しすぎても必要以上のガソリンは燃料タンクに戻りますので、問題ありません。



3. メインレバーが低速側（始動位置）になっていることを確認してください。チョークレバーを「閉」の位置にしてください。



4. エンジン部が動かないように片手で本機を図のように押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。



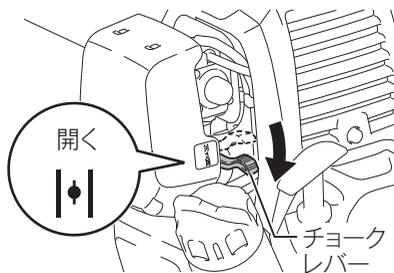
5. 本機には楽らくスタートを標準で装備しておりますので、より軽い引き力で始動が可能です。スタータハンドルをある程度勢いよく引っ張ってください。エンジンが始動するまで繰り返ししてください。（ロープはいっぱい引ききらないでください。引いたスタータハンドルは、その位置から手放さずに戻してください。）

使い方

6. エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」の位置に戻してください。

- ・ チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、必ず全開にしてください。
- ・ 気温が低いときまたはエンジンが冷えているときは、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する場合があります。ご注意ください。

7. 2～3分間低速で暖機運転をしてください。
8. エンジンの回転数が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速できるようになれば暖機運転完了です。



⚠ 注意

爆発音がしてエンジンが止まった場合、または始動したがチョークレバーを操作する前に止まった場合は、チョークレバーを「開」にし、再びスタータハンドルを引いて始動させてください。

チョークレバーを「閉」の位置にしたまま、スタータハンドルをいつまでも繰り返し引き続けると燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。

- ・ 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずしてスタータハンドルをすばやく数回引いて余分な燃料を出してください。またスパークプラグの電極部を乾かしてください。

使い方

エンジンが暖まっている場合

1. エンジンを平坦な地面の上に置いてください。
2. プライマポンプを数回、押してください。
3. スロットルレバーを低速側（始動位置）の位置にして、チョークレバーが「開」になっていることを確認してください。
4. エンジン部が動かないように片手で本機を図（34 ページ参照）のように押さえ、腰を十分に落として安定した姿勢をとってください。
 - ・ 本機には楽らくスタートを標準で装備しておりますので、より軽い引き力で始動が可能です。
 - ・ スタータハンドルをある程度勢いよく引っ張ってください。
 - ・ エンジンが始動するまで繰り返してください。（ローブはいっぱいに引ききらないでください。）
 - ・ 引いたスタータハンドルはその位置から手放さずに戻してください。

使い方

エンジン停止方法

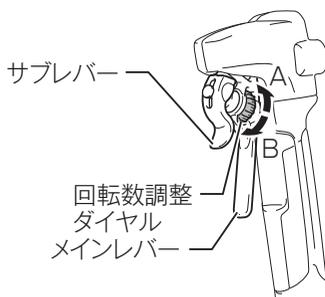
1. メインレバーおよびサブレバーから手を離します。
2. ストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで押し続けてください。



操作方法

レバー操作

- ・メインレバーを徐々に握ると、エンジン回転数が速くなり、刈刃が回転し始めます。
- ・さらに、握るとエンジン回転とともに刈刃の回転が速くなります。
- ・メインレバーをグリップと共に握ると、設定された速度で保持されます。この状態でサブレバーを握ると刈刃の回転がさらに速くなります。(スロットル全開)



回転数調整ダイヤル

- ・刈刃の回転数の調整ができます。レバーの握り代を規制することで、刈刃の回転数の上限を調整するものです。
- ・メインレバーをいっぱいまで引いたときの刈刃の回転数を調整できます。
- ・ダイヤルを A 方向に回すと刈刃の回転数設定が高くなり、B 方向に回すと刈刃の回転数設定が低くなります。

運転上の注意

ナイロンコードカッタ（別販売品）使用時は刈刃の回転数設定を高速にしてお使いください。
低速にしてお使いになるとクラッチが滑りやすくなり、摩擦熱でクラッチが損傷する恐れがあります。

使い方

アイドリングの調整

⚠ 注意

キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドリング以外は調整しないでください。調整が必要になりましたら、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

エンジン始動時に刈刃が回転したり、スロットルレバーを刈刃停止位置に戻しアイドリング状態にしても刈刃が回転し続ける場合は異常です。このような場合には、次の要領でアイドリング調整を行ってください。

1. アイドリング調整はボックスレンチのドライバーで調整ネジを回して行ってください。
2. アイドリング時に調整ネジを左に回すと、回転が下がり刈刃が回転しなくなります。(調整ネジを右に回すと回転数が上がります。)。
 - ・ アイドリング時とクラッチミート(刈刃が回り始める回転数)時との間に十分な差をつけ、アイドリング時は刈刃が完全に停止しているよう調整してください。
 - ・ 回転数を下げすぎるとエンジンが停止してしまうことがあります。この場合は調整ネジを右に回し回転数を上げてください。



使い方

刈払作業

⚠ 警告

刈刃（チップソー）に雑草などがからみついたときは、必ずエンジンを停止し、刈刃（チップソー）の回転が停止したことを確認してから取り除いてください。

- ・ 刈刃（チップソー）やエンジンが回ったままではけがの原因になります。

刈刃（チップソー）で打つ、たたくなどの方法で刈払作業をしないでください。

- ・ 跳ね返りや刈刃が破損し事故の原因になります。

雨上がりなど足元が滑りやすい場所、および急傾斜地では使用しないでください。またハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など不安定な場所では使用しないでください。

- ・ 転倒してけがの原因になります。

⚠ 注意

草刈りする場所にある小石、針金、空カン、空ビンなどの障害物は取り除いてから使用してください。

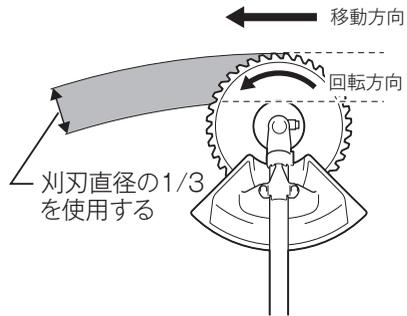
- ・ 使用中、刈刃（チップソー）が障害物に当たると、障害物の飛散、本機の跳ね返り、刈刃（チップソー）の破損などにより事故の原因になります。

- ・ エンジンを始動させ、肩掛けバンドを着用して本機を身体の右側に吊ってください。
- ・ 両手でハンドルを保持し、両足に平均に体重がかかるように適当に開いてください。
- ・ 刈刃を地面から浮かし、スロットルレバーを調節しながら刈払作業に合った適当な回転にします。刈刃の回転が低すぎますと、雑草が刈刃にからみつくことがありますので注意してください。



使い方

- ・ 刈払機は、身体のまわりを右から左へ回すようにしながら前進し、雑草を刈ってください。このとき刈刃を左側へ少し傾けますと、刈った雑草が左側に寄り能率的に作業が行えます。
- ・ 刈り残しをなくすために、刈刃の先端から 1/3 の範囲で刈ってください。
- ・ 雑草が高く繁っているときは、まず雑草を高めにはいて障害物がよく見えるようにしてからもう一度刈り取ってください。



保守・点検について

点検・整備

警告

点検・整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。またプラグキャップをはずしてください。

- ・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。

点検整備後は必ずすべての部品を組み付けたことを確認してから運転を行ってください。

リコイルスタータの取りはずしは事故の原因になりますので、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

お買い上げいただきました製品をいつまでも調子良く長持ちさせ、安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行ってください。スロットルワイヤの調整は行わないでください。整備には付属の工具の他にワイヤブラシ、針金なども必要です。

保守・点検について

| | 項目 | 点検・整備内容 | 記載ページ |
|---------|--------------------|--------------------------------|-------|
| 使用前 | エンジン、ネジ、ナット | 損傷と締まり具合の目視検査 全体的な状態と安全度の確認 | 48 |
| | エアクリーナ | 清掃 | 45 |
| | 冷却風通路 | 清掃 | 49 |
| | チップソー（刈刃） | 損傷と切れ味、締まり具合の確認 | 24 |
| | エンジンオイル | 点検、補給 | 29 |
| | 燃料タンク | 清掃、点検 | 31 |
| | アイドル回転数 | 点検、調整 | 38 |
| 給油後 | スロットルレバー | 機能確認 | — |
| | ストップスイッチ | 機能確認 | — |
| 30 時間毎 | ギヤケース | グリースの補給 | 47 |
| 毎週 | 点火プラグ （スパークプラグ） | チェック、必要な場合は交換 | 47 |
| 50 時間毎 | エンジンオイル | 交換（初回交換は 20 時間運転後 に行ってください） | 43 |
| 3 ヶ月毎 | 燃料フィルタ | 清掃、交換 | 48 |
| | 燃料タンク | 清掃 | 48 |
| 200 時間毎 | 燃料パイプ | 交換 | ※ 1 |
| | 吸・排気弁の間隙 | 調整 | ※ 1 |
| | エンジン | オーバーホール | ※ 1 |
| | オイルチューブ | 点検 | ※ 1 |
| 2 年間毎 | 燃料タンクキャップ | 交換 | — |
| 休業休止時 | 燃料タンク | 空にする | 50 |
| | キャブレタ | エンジンを運転し続け燃料を空にする | 50 |

※ 1…200 時間点検項目はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所へお申し付けください。

保守・点検について

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると、摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠ 警告

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。

- ・ やけどをする恐れがあります。また、停止直後はオイルケース内にオイルが戻りきらない為、オイル入れ過ぎの原因になります。

⚠ 注意

オイル補給時は上限を超えないようにしてください。

- ・ オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

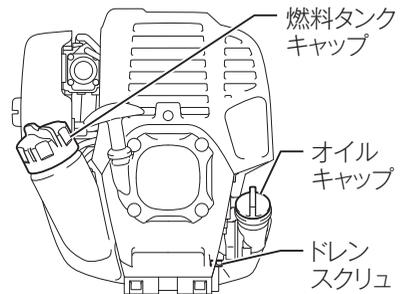
《交換時期》 ……初期 20 時間運転、その後 50 時間運転毎

《推奨オイル》 ……当社ミニ 4 ストローク用純正オイル、または、API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用 4 サイクルエンジンオイル）を使用してください。

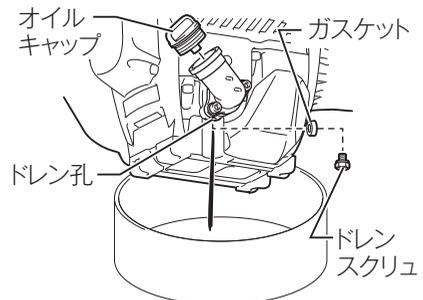
《オイル容量》 ……約 80 mL

交換方法

1. 燃料タンクキャップが締め付けられていることを確認します。



2. 大きめの容器（受け皿など）をドレン孔の下に置いてください。
3. ドレンスクリュをはずし、オイルキャップをはずすとオイルがドレン孔（排出孔）より排出されます。このとき、ドレンスクリュに組み付いているガスケットを紛失したり、はずした部品にゴミを付着させない様に注意してください。



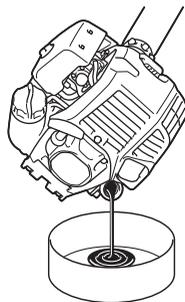
保守・点検について

4. オイルがすべて抜けたら、ガスケットとドレンスクリュを組み付けます。ドレンスクリュは緩んでオイルが漏れない様、しっかり締め付けてください。

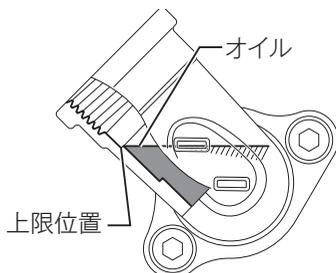
※付着したオイルは布などできれいに拭き取ってください。

ドレン孔を使用しない場合

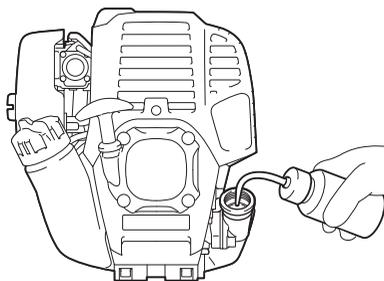
- ・ オイルキャップをはずし、本機をオイル注入口側に傾け、オイルを抜いてください。オイルは容器などに受けてください。



5. エンジンを水平状態にして上限位置まで新しいオイルを徐々に注入してください。



6. 注入後、オイルキャップが緩まない様、確実に締め付けてください。締め付けが緩いとオイルが漏れることがあります。



エンジンオイル交換のポイント

- ・ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は、法令で義務付けられています。法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上、処理してください。
- ・ オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください（6ヶ月に1回は新しいオイルと交換）。

保守・点検について

エアクリーナの清掃

⚠ 警告

エアクリーナの清掃をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- ・ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 注意

作業環境によってエレメントに付着する塵埃が多い場合は、1日に数回掃除します。

- ・ エレメントが詰まっていると、エンジンを始動したりその回転数をあげることが困難、または不可能になることがあります。

エレメントにオイルが付着したまま運転を続けると、エアクリーナ内のオイルが外にたれ、オイル汚れの原因になります。

エレメントを清掃する際は、エレメントを地面など汚れたところに置かないでください。

- ・ エレメントが汚れていると、塵埃を吸い込み、エンジン内部が傷つき、エンジン不調の原因となります。

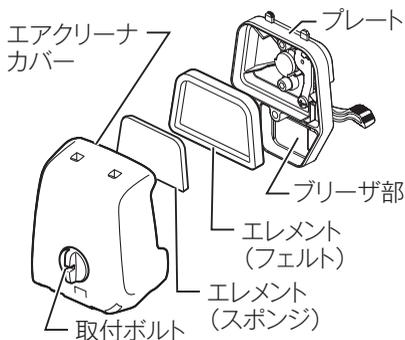
エレメントの洗浄にはガソリンを使用しないでください。

- ・ ガソリンを使用すると、エレメントが傷む原因となります。

《清掃・点検時期》…毎日（10時間運転毎）

清掃方法

1. チョークレバーを全閉側にし、キャブレタに塵埃などが入るのを防ぎます。
2. エアクリーナカバーの取り付けボルトをゆるめます。
3. カバーの下側を引っ張る様にして、エアクリーナカバーをはずします。
4. エレメントを取りはずし、汚れを落とします。



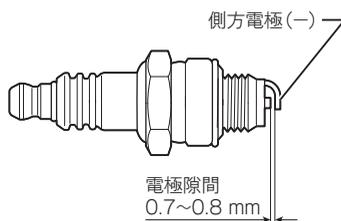
保守・点検について

5. 汚れがひどいときは、エレメント（スポンジ、フェルト）を取りはずし、ぬるま湯または水で薄めた中性洗剤で洗い、完全に乾かします。洗うときは、ねじったり、こすったりしないでください。
6. エレメントはよく乾かしてから組み付けてください。乾燥が不十分ですと始動困難の原因となります。
7. エアクリーナカバーとプレートのブリーザ部付近についたオイルをウエスなどで拭き取ります。
8. エレメント（フェルト）を取り付ける際は底が深い方をエレメント（スポンジ）に向けて図のように取り付けてください。
9. エアクリーナカバーを取り付け、取り付けボルトで締め付けます。（取り付けの場合は、上側の爪をはめ込んでから下側の爪をはめ込んでください。）

保守・点検について

点火プラグ（スパークプラグ）の点検

1. スパークプラグの取りはずしや取り付けには付属のボックスレンチを使ってください。
2. スパークプラグの2電極間（右図参照）は、0.7～0.8 mmです。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、調整してください。
3. スパークプラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換してください。
4. 交換する際は、NGK-CMR4Aをご使用ください。



ギヤケースへのグリースの補給

⚠ 警告

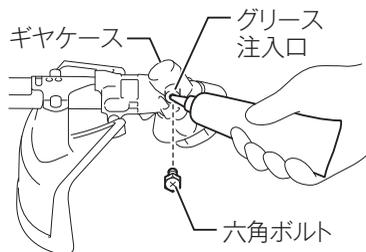
エンジン停止直後はギヤケースの温度が高くなっています。十分に冷えてからグリースの補給を行ってください。

- ・ やけどをする恐れがあります。

補給時間をお守りください。

- ・ 定期的にグリースを補給しないと本機の寿命を縮めます。

- ・ ギヤケースの注入口よりグリース（シェルアルバニア No.2 相当品）を30 時間毎に補給してください。



保守・点検について

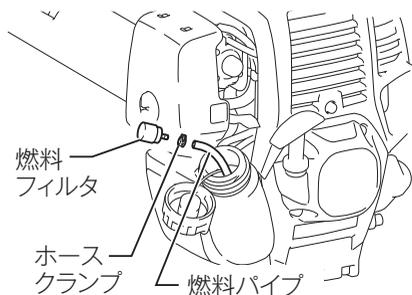
燃料フィルタの清掃

⚠ 警告

燃料フィルタの清掃をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

- ・ 燃料フィルタが目詰まりすると始動困難になったり、エンジンの回転数が上がらない場合があります。
 - ・ 燃料フィルタは次の要領で定期的にチェックしてください。
1. 燃料タンクキャップをはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。このとき、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
 2. 燃料フィルタを針金などを使い、給油口から引き出します。
 3. 燃料フィルタの表面が汚れている場合はガソリンで汚れを落としてください。汚れたガソリンは各自治体指定の方法で処理してください。燃料フィルタの汚れが著しいときは交換してください。
 4. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
 5. 燃料フィルタの交換についてはお買い上げの販売店、または当社営業所へお申し付けください。



各所ボルト、ナット、ビスの点検

- ・ ゆるんだボルト、ナットなどは増し締めしてください。
- ・ 燃料やオイル漏れがないか点検してください。
- ・ 破損部品は新品と交換し、安全を心がけてご使用ください。

保守・点検について

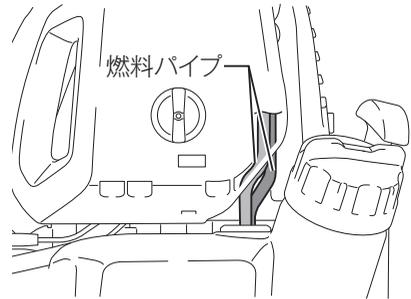
燃料パイプの交換

⚠ 警告

燃料パイプの交換をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

- ・ 使用頻度にかかわらず異常が認められた場合、燃料パイプは交換してください。(交換目安:約1年)
- ・ 燃料漏れは引火する危険があります。点検時漏れなどがある場合は即、交換してください。



各部の清掃

- ・ エンジンは、いつもきれいにしよう心がけてください。
- ・ シリンダのフィンなどにゴミがつまると、焼付きの原因にもなりますので、十分注意してください。

保守・点検について

保管方法

⚠ 警告

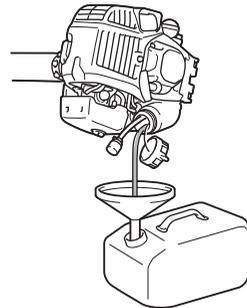
燃料は抜くときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- ・ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 注意

長期間ご使用にならないときは、燃料タンクや気化器（キャブレタ）から燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に保管してください。

- ・ 次の要領で燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。
1. 燃料タンクキャップをはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。
この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。



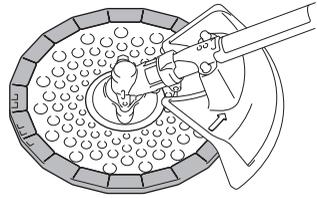
2. 燃料フィルタを針金などを使い、給油口から引き出してください。
3. プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜き取ってください。
4. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けて、エンジンが停止するまで運転させてください。

注

- ・ エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてから続きの作業を行ってください。
5. スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしめてください。
 6. スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。

保守・点検について

7. 刈刃には刃物カバーを取り付けて保管してください。



8. 保管するときは、本機が水平になるようにもしくは刈刃を上にして立てかけるようにしてください。
(この際、本機が倒れてこないように十分に注意願います。)

注

- ・ 絶対に刈刃を下にして立てかけた状態で保管しないでください。潤滑油が染みだす恐れがあります。
9. 抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。

保守・点検について

修理をお申し付けされる前に、まずご自身で点検を行い、その上でなお異常があるときは、取扱説明書の記載内容以外はむやみに分解しないでください。お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所に修理をお申し付けください。

| 不具合の状況 | 原因(状態) | 対応 |
|-----------------|------------------|---|
| エンジンが 始動しない。 | プライマポンプの操作忘れ。 | 7～10回押してください。 |
| | スタータロープの引き速度が遅い。 | 勢いよく引き出してください。 |
| | 燃料切れ。 | 燃料を給油してください。 |
| | 燃料フィルタの目詰まり。 | 清掃してください。 |
| | 燃料チューブが折れている。 | 折れ目を直してください。 |
| | 燃料が古い。 | 燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。 (約1ヶ月が目安です。) |
| | 燃料の吸い込み過ぎ。 | チョークレバーを“開”にして、スロットルレバーを中速から高速にし、スタータハンドルをエンジンが始動するまで引いてください。始動しませんでしたと刃物が回転します。十分注意してください。 それでも始動しないときは、スパークプラグをはずし、電極を乾燥させ、元通り組み付けて、同様の始動操作を行ってください。 |
| | プラグキャップが外れている。 | 確実に取り付けてください。 |
| | スパークプラグの汚れ。 | 清掃してください。 |
| | スパークプラグ電極の隙間の異常。 | 隙間を調整してください。 |
| | スパークプラグのその他の異常。 | 交換してください。 |
| | キャブレタの異常。 | 点検整備を申し付けください。 |
| スタータロープが引けない。 | 点検整備を申し付けください。 | |
| 駆動系の異常。 | 点検整備を申し付けください。 | |

保守・点検について

| 不具合の状況 | 原因(状態) | 対応 |
|---|--|-----------------------------|
| エンジンが すぐ止まる。 エンジンの回転 が上がらない。 | 暖機不足。 | 暖機運転してください。 |
| | エンジンが暖まっているのにチョークレバーを“閉”にしている。 | “開”にしてください。 |
| | 燃料フィルタの目詰まり。 エアクリーナの汚れ、詰まり。 キャブレタの異常。 駆動系の異常。 | 清掃してください。 |
| | | 清掃してください。 |
| | | 点検整備を申し付けください。 |
| 刈刃が回転しない。 ↓ 直ちにエンジンを 停止する。 | 刈刃締付ナットが緩んでいる。 | 確実に取り付けてください。 (24 ページ参照) |
| | 刈刃、飛散防護カバーに小枝などが引っかかっている。 | 異物を取り除いてください。 |
| | 駆動系の異常。 | 点検整備を申し付けください。 |
| 本機が異常に 振動する。 ↓ 直ちにエンジンを 停止する。 | 刈刃が割れ、曲がり、磨耗している。 | 刈刃を交換してください。 |
| | 刈刃締付ナットが緩んでいる。 | 確実に取り付けてください。 |
| | 刈刃と刃受金具の凸部がずれている。 | 確実に取り付けてください。 |
| | 駆動系の異常。 | 点検整備を申し付けください。 |
| 刈刃の回転が 止まらない。 ↓ 直ちにエンジンを 停止する。 | アイドルリングの回転が高い。 | 調整してください。 |
| | スロットルワイヤがはずれている。 | 確実に取り付けてください。 |
| | 駆動系の異常。 | 点検整備を申し付けください。 |
| エンジンが 止まらない。 ↓ エンジンをアイ ドリングにし て、チョーク レバーを“閉” にして止める。 | ストップスイッチのコネクタがはずれている。 | 確実に取り付けてください。 |
| | 電気系の異常。 | 点検整備を申し付けください。 |

暖機後の再始動でかからないときは…

上記、項目をチェックしても異常がない場合は、スロットルを 1/3 程度開けて始動してください。

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711 (代表)